平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	市民農園に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	6	1	3	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業振興課			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	飯田　純一			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	未利用区画をなくすための方策を検討する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	平成２６年度の鎌ケ谷市市民農園貸付事業実施要綱改正後の未利用区画数を検証する。
②①に基づく取組み結果	鎌ケ谷市市民農園貸付事業実施要綱の改正を行い、より利用しやすい環境を整えた。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	野菜栽培を愛好する市民	意図（対象をどうするのか）	農業理解の契機とする。
②事務事業の概要	市街化区域内にある農地を借り受け、市民に農園の貸付を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化が進む中で、農業と市民が触れ合う貴重な機会として需要があり、今後も継続して利用希望があると予想される。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果：１７１区画中、１４０区画の農園貸付を行い、農業理解の契機とした。

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	農業士に相談した件数	16	16	8	人	業務取得
ii						
iii						

③事務事業のコスト

	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成27年度予算
事業費（千円）	2,684	2,697			3,027
国支出金（千円）			2,659	市民農園用地賃借料	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	2,684	2,697			3,027

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）：未利用区画を無くすための方策を検討する必要がある。

②評価

i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		

③上記評価の理由：市民が野菜等の栽培を通じて自然にふれあうとともに、農業に対する理解を深める場の提供となるため。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	
②計画に対する事業実績	
③達成状況	
④未完了・非着手の理由	

平成26年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
		補正			現年分	
		流用・充当				
平成27年度への繰越額						

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	梨剪定枝等堆肥化事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	6	1	3	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業振興課			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	飯田　純一			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	都市化が進行し、剪定枝の処分問題はさらに深刻となっていくことから、鎌ケ谷市果樹剪定枝等リサイクル事業推進協議会による剪定枝の堆肥化事業に係る事業を推進するため、堆肥化に係る事業費分を負担金として交付する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	国及び県へ生産・販売のための申請を行い、販売できる環境を整備する。
②①に基づく取組み結果	堆肥化に係る事業費を負担金として交付した。また、生産・保管に係る土地の賃借を行うとともに、堆肥のサンプルによる実験及びアンケート調査を行い、事業の円滑化を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	果樹剪定枝等	意図（対象をどうするのか）	堆肥化する。
②事務事業の概要	果樹剪定枝等を原料とした堆肥を生産する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	H26年度から「鎌ケ谷市果樹剪定枝等リサイクル事業推進協議会」が当該事業を引き継ぎ、堆肥の販売に向けた取り組みを行っている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	果樹剪定枝の堆肥化：約126t

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	堆肥生産量	289	304	351	m3	業務取得
ii						
iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	5,556	5,212	金額（千円）	内容	6,020
国支出金（千円）			1,376	果樹剪定枝等堆肥化事業用地借上料	
県支出金（千円）			3,350	果樹剪定枝等リサイクル事業負担金	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	5,556	5,212			6,020

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	販売に向けた環境づくりが必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	今後も引き続き精査・検証等を行い、剪定枝等リサイクル事業を推進する必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	借地及び負担金	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	借地料及び負担金を支出	5,290	5,290	当初	5,290	5,212	H25からの繰越
③達成状況	完了			H25⇒26繰越			現年分　5,212
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	手賀排水機場修繕事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	6	1	5	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業振興課			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	飯田　純一			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、本市の負担割合に応じて事業費の負担を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	引き続き、本市の負担割合に応じて事業費の負担金を支払う。
②①に基づく取組み結果	負担金を支出するとともに、千葉県に事業内容及び進捗状況の確認を行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	県営手賀沼土地改良施設	意図（対象をどうするのか）	施設の延命措置
②事務事業の概要	県営手賀沼土地改良施設の修繕に係る負担金を支払う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	県営手賀沼土地改良施設のポンプが台風により損傷し、平成23年度より三か年にて修繕が行われる予定であったが、県予算の減額や天候等の理由により遅れが生じ、平成28年度までに延長となった。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	手賀排水機場の修繕及び整備を行った。

②成果を表す指標	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	工事施工件数	3	4	5	件	業務取得
ii						
iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	2,342	1,188	金額（千円）	内容	2,763
国支出金（千円）			1,188	基幹水利施設ストックマネジメント事業負担金	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	2,342	1,188			2,763

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	農地の冠水被害を軽減するため必要な事業であり、継続していくことが必要である。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	手賀沼排水機場の延命化を図ることで、水害を未然に防ぐため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	負担金	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	負担金を支出	2,475	2,475	当初 2,475	1,188	H25からの繰越	
				H25⇒26繰越			
③達成状況	完了			補正		現年分	1,188
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	農業委員会事務局の運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	6	1	1	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業委員会事務局			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	小金谷　幸次			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	農業委員会の活動計画の遂行と新たな農地法の内容、目的等を事務局及び農業委員会を含め、理解を深め運営を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	農地法について農業委員も含め、研修等を利用して理解を深め、農地の適正な管理について検討する
②①に基づく取組み結果	平成27年度までの目標を定めた活動結果・検証評価の実施		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	農地法等に基づく業務を円滑に運営するための活動	意図（対象をどうするのか）	農業委員会事務の点検及び検証の実施及び意識向上
②事務事業の概要	①農地法等の法律によりその権限に属された事務　②農地等の効率的な利用促進事務、許可申請・各種証明に伴う調査並びに審査　③現地調査・総会等			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化に伴う農地隣接地の宅地化等により、営農環境が悪化し、農業経営が厳しい状況の中、農業従事者の高齢化及び担い手不足により農地の遊休化が懸念されている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	食糧自給率の向上のための優良農地の確保と有効利用及び担い手の育成確保と農用地利用集積の斡旋を行い、一団化した農地への誘導を図りこのことにより遊休農地を削減した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	農業委員活動日数	649	600	681	日	活動記録簿
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	10,649	11,931	金額（千円）	内容	11,045
国支出金（千円）					
県支出金（千円）	1,225	2,110			1,185
市債その他（千円）	128	129			92
一般財源（千円）	9,296	9,692			9,768

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	農地法等の改正により、その目的、内容等についての理解を深めることが課題					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	農地法等がの改正されることに伴い、農業委員会の運営強化について引き続き検証していくため					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H25からの繰越
				H25⇒26繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					